

商学部協定校留学 帰国報告書

- ※ 商学部の協定校留学を終えた学生は、帰国後3か月以内に帰国報告書を商学部事務室に提出するものとします。
- ※ 報告事項は下記の1～7を参考にし、必要に応じて項目を削除し、この文書（Word ファイル）に直接書き込んで作成してください。ファイルと印刷原稿一部を提出してください。字数は自由ですが、全体で3000～4000字程度を目安とします。添付できる資料があれば添付してください。提出物は返却しませんので、必ずコピーを手元に保存してください。
- ※ 報告書（印刷原稿）は商学部の学生、教職員が閲覧できるものとします。商学部の協定校留学制度の改善に役立て、留学を希望する学生への情報提供を行うことが目的です。
- ※ 報告書の一部（「6. 商学部学生へのメッセージ」）は、学部ホームページに公開しますが、その際は報告者の許諾を得ることとします。

（商学部国際交流委員会）

留学先協定校名	レンヌ商科大学 Groupe ESC Rennes
留学者氏名	中山 珠希
留学期間	2013年 9月 ～ 2014年 4月
出発時の学年・組・番号	2年 8組 22番
所属コース	
本報告書の提出日	2014年 5月 19日

1. 出発前の準備（留学の目的と学習計画、入学許可申請、外国語能力、留学費用、奨学金、健康保険・旅行保険、ビザなど）
2. 協定校での諸手続き
3. 宿舎と日常生活
4. 協定校のカリキュラム・履修した授業、課外活動、留学の成果
5. 帰国準備と帰国後の手続き
6. 商学部学生へのメッセージ（400～600字程度）

学部 HP への掲載を 許可します

（許可いただける場合は、掲載可能な写真等ありましたら、ご提供ください）

7. その他

留学体験記



《出発するまで/準備》

私は、大学生活が始まる前から、絶対に留学したいと思っていました。ビジネスのことをそんなに勉強していないうちにビジネススクールについて授業についていけるかという心配以外、特に悩むことなどはありませんでした。実はフランス語に関しては、初めはそこまで関心がなかったのですが、明治大学でフランス語の授業を受けているうちに、第二外国語の面白さに少しずつ気づき、もう少し取り組んでみようと思いました。

準備に関しては、とりあえず提出書類の多さ、難しさ、ややこしさに圧倒されていました。ただ、明治大学の事務の方が毎回送って下さる指示に従って進めていけば問題なかったので、そこまで心配する必要はないと思います。

《到着後授業開始まで》

welcome team というグループが、留学生をサポートしてくれます。Welcome team が、授業が始まるまで何回かイベントを開いてくれるので、参加するべきだと思います。私は知っている人が1人しかいなかったのも、何とか友達を作らないとさみしくて耐えられない！と思いほぼ毎回参加しました。

《授業》

前期は Advertising, Organizational behavior, B2B marketing, Project management, French language, French culture を取りました。ビジネスの授業では必ずと言っていいほど、プレゼンテーションやグループディスカッションといったグループワークがあり、英語がうまく話せない私にとって、毎回の授業が崖っぷちそのものでした。私はとても人見知りなので、うまくコミュニケーションをとれるかはグループメンバー次第でした(これではいけないと気づきましたが)。あるグループでは、1つのプロジェクトを完成させることに全員が1つになって、土曜日まで一緒に準備しました。プレゼン後は、先生も他のグループの子たちも、「すごかった！面白かった！完璧だった！」と言ってくれました。みんなで何かを成し遂げたことがあまりなかった私は、この体験にとっても感動しました。しかし、フランス人しかいないグループなどでは、英語を話してくれないことも多々あり、辛いと感じることもありました。

後期は Strategic human resource management, Corporate finance, New product & Brand

management, Service marketing, French language, Corporate social responsibility を取りました。この Semester では、フランス語のクラスのレベルが上がってしまい、ついていくことが出来ませんでした。下げてもらおうようお願いしたら、今からはちょっと遅い、と言われてしまいました。難しすぎて、授業に行くのが億劫でした。語学の授業は低めのクラスでちょうどいいと思います。大量のプレゼンテーションとグループアサインメントのおかげで、あまり遊びに行ったりできなかったのですが、大学生活 2 年間の中で、1 番役に立つことを勉強していると実感でき、勉強することが少し楽しく感じられました。

《到着後手続き》

OFII(移民局)から滞在許可証をもらうまでは VISA に関しては気を付けてください。手順としては、学校で必要書類を提出した後、OFII から一通目の手紙を受け取ります。そして、二枚目の手紙(健康診断について)が届いたら、その手紙で指定された日時に、OFII に健康診断を受けに行かなければいけません。滞在許可証は、健康診断を受けたその日にもらえます。一通目の手紙は滞在許可証をもらうまで取っておくことをお勧めします。一通目の段階、滞在許可証発行後の段階では、行くことが出来る国が異なるので、自分できっちり調べてから旅行の計画を立てることをお勧めします。

フランスでは、政府が住居手当を付与しています(CAF)。留学生ももらうことができるので、絶対活用すべきです。注意としては、ESC からメールを受け取ってすぐに申請書(オンライン)を提出しなければいけないということです。この申請書提出の月からしかもらうことが出来ないからです。

《その他》

普段学校のあと、みんなバーに行ったり、クラブに行ったりしていました。私はあまり行きたいと思えなかったので、学校でおしゃべりするか、ホームパーティーをしたりして遊んでいました。前期は日本人がいなかったなので、みんな可哀そうだと思ったりしく、よく遊んでくれました。

各 Semester に 1 週間休暇があり、旅行に行くことができました。フランスからは国外にも簡単に安く(日本からと比べたら)行けるので、とても便利でした。後期には、前期に仲良くしてくれた子たちの国へ遊びに行くことができました。たまに授業がない日が重なることもあり、ブルターニュの小さな町へ日帰り旅行したりもしました。

忙しくないときは、日曜日に日本語を勉強しているフランス人の生徒と 3 時間くらいお互いの母語を教えあったりもしました。

土曜日の午前中には、フランスで 2 番目に大きいと言われているマルシェが開かれます。私は、いつもスーパーで買い物を済ませてしまっていたので、ほとんど行くことがありませんでした。しかし、帰るころになって、マルシェにはすごくフランス独特のものがたくさん置いてあることに気づき、もっと来てみればよかったと後悔しました。留学中は旅行と違い、食材を買って食べることが出来るので、もしレンヌに留学する方がいらっしゃれば、是非マルシェに通っていただきたいと思います。



寿司パーティー





誕生日会



休暇中、ポーランドへ旅行に行ったとき

《帰国時》

帰国する際、荷物を持って帰らなくては行けないのですが、船便がありません。それに加え、空輸はとても高額です。なので、私は自分のスーツケース2つ、母のスーツケース2つにすべてを入れ、自力で持ち帰ることにしました。お金はかかりませんでしたが、これらのスーツケースを運び、歩くことはとても大変でした。

また、多くのアパートでは家を去る1か月以上前しか契約を変更することが出来ません。なの

で、帰る前に少し旅行していこう！と決めたらすぐに契約期限の変更をしておかなくてはけません。

《留学の成果》

約 1 年間の留学を終えてみて、本当にたくさんのことを学ぶことが出来たと思います。語学、ビジネスはもちろん、対人関係、自己管理、家族の大切さなども改めて実感しました。特に、家族にはたくさんの迷惑をかけてしまったと思います。そして、離れてみて初めて両親の偉大さに気づかされました。留学中は、自分の能力の低さに落ち込んだり、ホームシックになったりもしましたが、家族や友達のおかげで、なんとか無事に全うすることが出来ました。この 1 年間で得たことを帰国後も忘れずに、活かし続けたいと思います。

《商学部学生の方へ》

よく、留学に行くことを話すと、すごいね！と言われたりもしましたが、留学に行くことは別にすごいことでもなんでもないと思います。もちろん、日本を離れている間の機会損失はありますが、留学で得られる様々なことと天秤にかけて、どちらが長期的に自分にとってプラスになるかを考えたら、行かないという選択はとてももったいないと思います。交換留学だと、明治大学に払う学費を、向こうの学校の学費にあてることが出来るので、金銭的な負担はとても少ないです。

そして、フランスは時間の流れがゆっくりしていて、自分と向き合う時間がたっぷりあります。日本にいたら、忙しさに追われて、考えることを避けがちで、自分の将来のことなどもじっくり考えることが出来ました。

留学という経験は、時間に余裕のある大学生の間が一番しやすいと思います。サークルや部活、アルバイトなど、やりたいことは山ほどある時期でもあるのですが、留学という貴重な経験にチャレンジしてみることを私はおすすめします。